

# 西郷地区 地域づくり懇談会 議事録

1 日時 平成25年1月18日(金) 19:00~20:45

2 会場 西郷地区公民館

3 出席者 地元出席者 33名  
市側出席者 22名

竹内市長、深澤副市長、羽場総務部長、松下企画推進部長、山根農林水産部長、藤井都市整備部次長、山本環境下水道部次長、松ノ谷教育委員会事務局次長、久野中山間地域振興課長、富山危機管理課参事、尾室企画推進部次長  
<河原町総合支所>東田支所長(司会)、山本副支所長、谷口市民福祉課長、木下産業建設課長、山根水道局河原営業所長、露木地域振興課課長補佐、佐々木教育委員会事務局河原町分室参事、大塚地域振興課主事

<事務局>安本協働推進課長、谷村協働推進課主任、岡田協働推進課主任

## 4 「地域防災計画の見直し」について

スクリーンに基づき説明(危機管理課参事)

## 5 「協働のまちづくり」についての報告

(地区公民館長) ※スクリーンに基づき説明

3年目を迎えました西郷むらづくり協議会の取り組みについて、状況をお話しします。

西郷地区の主な様子としては、高齢化率、65歳以上の比率は36.7%であると先日総合支所から伺いました。むらづくり協議会は3年前に発足して、現在、数十名の会員が5つの部会に所属して、いろいろな活動をしています。その根拠になっているのは住民アンケートで、70%近くの回収率でしたが、これを検討、集約して、それをもとにしたむらづくり計画を6本の柱でつくりました。この6本の柱を実現するために部落長会や公民館、いろいろな住民のかたがた、各集落と協力して事業を進めているという現状です。

きょうは、成果として代表的なものを3つ挙げます。まとめて言うと、西郷に眠っている、あるいはみんながあまり自覚していなかった地元の魅力を私たちが再発見し、そしてそれを広く市内のかた、いろんなかたがたに紹介したり参加したりしてもらおうというかたちで発信をしたというのが成果ではなかったかと思っています。

ぎゃらりーあっちこっちは、今年で4年目になります。地元の部落とむらづくり協議会のメンバーが協力して、いろいろなイベントといたしましよか、地域、その村の自然の景

平成24年度 鳥取市地域づくり懇談会

### 「協働のまちづくり」の成果と課題

H25.1.18 いなば西郷むらづくり協議会

西郷地区

世帯数447、人口1369、65歳以上503、高齢化率36.7% (H24.12現在)

いなば西郷むらづくり協議会

平成21年12月に設立  
5つの部会を編成して活動

「いなば西郷むらづくり計画」  
人と人が支え合う郷  
健康づくりの郷  
豊かな自然を満喫できる郷  
楽しく文化あふれる郷  
住みやすい環境の郷  
元気な農林業の郷



観、もてなし、文化、そういったものを紹介するという取り組みになっています。昨年はいにく雨模様でしたが、湯谷温泉の持ち主のご厚意で足湯装置をつくってもらって楽しみました。

それから、高山という1,053mの名峰がありますが、これも地元の北村部落の皆さんと協力をして、60人規模で一昨年から登山道を整備いたしました。いまやどんなかたでも1時間ほどで登山口から頂上まで登って、眺望を楽しんだりブナ林の雰囲気味わったりできる状況になりつつあります。今後、近くにある三滝溪、それから途中にある湯谷温泉、いま始まっている川遊びなど、そういう地元のいろいろな資源と上手につながっていくようにしたいということも話し合われています。

それから、開発交流部が主に頑張っているのですが、まちむら交流ということで、鳥取市の修立地区公民館さん、それから倉吉の西郷地区、これは名前が一緒だという縁で結ばれています、こことやっています。少年野球の試合とか川遊びとか、いろいろなレクリエーションをして盛り上がっています。修立地区の皆さんには、我々が用意した農業関係、あるいは自然体験関係のプログラムに親子で参加してもらっていますし、また修立地区の文化祭に西郷から新鮮なおいしい農産物を販売して、もっと回数を増やしてくれと言われるほど非常に喜ばれています。これがちょっと課題だなと思っています。

以上が代表的な地域の魅力ということで、我々自身が手ごたえを感じているところです。

今後も、現在やっているのですが、いろいろな地域づくりを幅広い住民の皆さんと、それから行政のかたがたのご支援と協働でますます進めていきたいと思っています。何といても中山間地ですから、安全で安心な生活環境をつくる、これに尽きると思います。まだまだ道半ばです。しかし、いろいろなご支援をいただいて、交通安全、曳田～天神原のバイパス建設にも手ごたえを感じていますし、防災防犯で防犯灯を増設するという点でも非常にご協力をいただいています、今年度中にあと4基、県道沿いで増えるようになっていきます。

きょうの議題である土砂災害防止対策としては、住民が寄り集まって活動したり、いろいろな協議をしたりする拠点としてぜひ整備をお願いしたいというのがこの公民館施設です。福祉健康分野では、新しく住民のかたがたがふれあいサロンを発足されました。また、命のバトンも河原町の福祉協議会で導入されています。農林水産では、多分県内初だと思いますが、西郷地区を挙げて「農地水まもり隊」が発足したという、これも我々の努力の成果かなと思っています。

2つ目に書いてある2つ、河川美化活用、それから地域資源開発ですが、住民アンケートにも、もともときれいな川や山があるが生き物が少なくなったとか、汚れ放題だとか荒れていると嘆く声がありました。では何とか住民の力と行政の支援でこの西郷の川をもっと復活させようと、こういうことで、今年の夏に初めて湯谷つり橋の付近で川遊びデーを行いました。これもたくさんの市内のかたが来られて、つかみ取りや溪流探索などで、一日非常に楽しく過ごしていただきました。我々は沿道の川岸の雑木、雑草をもっときれい

#### 課題： 参画と協働で進める地域づくり

##### \* 安全で安心な生活環境づくり

交通安全： 県道バイパス建設、新しいバス運行体系  
防災防犯： 土砂災害防止対策、防犯灯の増設  
福祉健康： ふれあいサロンの発足、命のバトン導入  
農林水産： 「農地水まもり隊」の発足、農産物販売



##### \* 新たな地域資源の開発

河川美化活用： 西郷の美しい溪流を復活させ、  
散策や川遊びなど豊かに展開  
地域資源開発： カジカ蛙やアユカケ等の希少生物  
保護増殖、地域資源の調査研究



にして、四季を通じて楽しめる環境をつくりたいということで、これも市のご支援をいただいています。

また、10年以上のキャリアがあるカジカガエルの研究、保護。それから最近全国で初めて県の栽培漁業センターが養殖に成功した、淡水魚のアユカケを何とか西郷で飼育できないかということで、いま研究をしているところです。いい水が要りますが、味が非常にいい魚だそうです。2月9日にここでアユカケ料理教室を行います。今月中は申し込みを受け付けています。現在16名の申し込みがありますが、あともうちょっとだけ枠がありますので、ぜひ住民の皆さん、応募してください。

ということで、地域資源も頑張ればもっともっとあるし、楽しい夢も膨らむのではないかと、夢は大きく、歩みは着実に、そして独りよがりにならずにいろんなかたと協力して、村のかたがたにも理解していただいて、頑張っていきたいと思っています。

(企画推進部長)

我々は中山間地域対策も担当しています。この西郷地区の元気な取り組み、ぎやらりーあっちこっちですとかさまざまな取り組みが、全市的なモデルケースになっています。我々に相談がありますと、何でもこの西郷地区に行って一緒に勉強しましょうとか、そういうことでいろいろご迷惑もかけていると思いますが、ぜひこの取り組みを継続していただいて、鳥取市全域に元気が宿るようにご協力をよろしくお願いします。

また、そういう活動が平成24年度の優良公民館文部科学大臣表彰を受けられたということで、本当におめでとうございませう。心からお喜び申し上げます。

## 6 地域の課題についての市長等との意見交換

### 西郷地区公民館全面改築について

西郷地区公民館は、開館50周年の節目を迎えるとともに住民主体の地域づくりが評価され、第65回優良公民館文部科学大臣表彰を今年の11月に受けたところです。しかし、当公民館は昭和37年に旧耐震基準で建築された鉄筋3階建ての建物で、老朽化が激しく、安全上不安を抱えた非常階段・テラスや、男女共用トイレなどもそのまま、地区住民から新築の要望が以前からあり、平成17年度に地区部落長会が市に新築要望をしているところです。

当公民館は、市有建築物の中でも最も古い避難所指定施設と聞いています。耐震性・安全性はどうなのでしょう。改めて、安全で便利な地区公民館の全面改築を強く要望します。

<担当部局の所見等>

【企画推進部】

西郷地区公民館の耐震診断は、平成23年度から24年度にかけて行い、改築又は耐震補強が必要と判定されました。

今後の本市全体の対応方針として、施設を65年間使用することを前提に、耐震補強工事を行うことを原則としておりますが、西郷地区公民館は築後50年経過していること、また、高額な耐震補強工事費も見込まれることから、新しい公民館整備に向けて、今後、

地域代表者のかたがたと一緒になって検討を始めていきたいと考えております。

(企画推進部長)

西郷地区公民館は、全市で61の地区公民館がある中で、いちばん古い公民館です。それにはきれいに使っていただいていますし、大事に使っていただきまして、感謝申し上げます。50年経過しているということで、利用に支障のないように修繕は行ってきたわけですが、崩落したりしているようなところもありまして、全体的に老朽化が進んでいるところです。

全市で旧の耐震基準で建てられた地区公民館が22館ありまして、それを23年度と24年度をかけて耐震診断を行いました。その中で、西郷地区公民館についても改築または耐震補強が必要という判定がなされました。全市的な対応として、基本的にはなるべく長く施設はもたせたいと考えています。耐用年数を概ね65年という目標も立てていまして、それに向けて多くの地区公民館では耐震補強工事を行っていくことになると考えています。これが原則ということになりますが、耐震補強工事と新築が同じような額になるような場合には新築したりとか、それから例えば空いている立派な施設があるようなところだったら、そちらを使ったりということもあります。

ただ、西郷地区公民館は50年も経過していますので、耐震補強をしたところで、耐用年数が65年というのと、あと10年、15年したら建てかえということになりますし、耐震補強工事をしようと思っても3階建てですからかなりの費用がかかります。そういうことで、このたび竹内市長の方から新築をしようという指示が出ました。とはいえ地域のかたの意見を聞かずに建てられませんので、地域の代表のかたを出していただいて、どういう公民館にするかということについて、総合支所や本庁の協働推進課も一緒になって検討を始めたいと思います。どうかいいものができますように、ご協力をお願いしたいと思います。

(地元意見)

新しい公民館はだいたい平屋だと聞いていますが、この西郷地区公民館は3階建てですので、でき得れば2階建てにさせていただきたいなと思っています。これは私個人だけではないと思います。中にはそういう気持ちがあっても発言されない人もいるかと思っていますので、私が代表して発言させていただきました。

(企画推進部長)

いま鳥取市が建築に向かっている公民館の姿ですが、やはり高齢化社会を迎えまして、

## 公民館の老朽化の状況





基本的には450㎡ぐらいのものになりますが、面積をしっかりとった上で、平屋で木造でと、それから段差が解消されたりして、とても使いやすい公民館になっています。部屋数もしっかりとれますし、大きなスペースもとれます。2階建ての地区公民館を持っておられるところからは平屋にしてくれという声がほとんどでして、ですから、参考にはさせていただきますが、どうなのでしょうね。平屋の方が使いやすいと私もは思っていますが、そういうご意見もあるということで承らせていただきます。

(支所長)

2階建てがいいと思われる理由をご紹介いただけますか。

(地元意見)

ひとつは、子どもの預かりセンターが2階にあるわけです、現在。児童クラブも入っている関係で、平屋にしてそれだけのスペースが本当にとれるのかなという心配をしています。それから、いま、いきいきサロンが農協の旧西郷支所を間借りしているのですが、それらもでき得れば一緒にスペースに入れていただいたらありがたいなと思っています。そうすれば自ずと公民館として活用できる面積が狭くなるので、その分をカバーしようと思ったら、2階建てにならないかなと思っています。

(企画推進部長)

これから準備委員会のようなものを立ち上げるにあたり、いきいきサロンとか児童クラブ、そういうことについても、教育委員会を交えたりして、どういうあり方がいいのかということと一緒に検討していったらどうでしょうか。それによって建物の姿が見えてくると思いますので。ですから、具体的には地域の代表者のかたと一緒に、これから検討を始めさせてください。

(竹内市長)

木造平屋にすれば階段のところのスペースなどが要らなくなりますし、何より調理室などからの動線を考えても、2階に持って上がったという事もなくなったりします。鳥取市の標準的な地区公民館の面積は450㎡です。たしかにここは542㎡ということで、こちらの方が3階建てで広いのですが、これからの高齢化時代とかバリアフリーとかいろんなことを考えると、まずとれる限りは平屋で450㎡とるのがいいという考え方で。それから、県産材利用をできるだけ推進したいのです。こちらの地域にも森林資源があろうかと思いますが、少なくとも鳥取市の中で八頭中央森林組合とか東部森林組合の林業というのは、いま、山の木の使用道があまりなくて、立派な木が生かされていないといったことがあります。また、間伐などがうまくいなくなっているような状況もあります。森を守っていくためにも、やはり地元でちゃんと木を使おうという取り組みがあります。

地区公民館については、平屋の木造でということ在全市的な視野から積極的に推進しているということもありまして、どこにどういう形で建てるかというのがまだあまりここでは明確に問題提起されていませんが、具体的に地域の代表のかたがたと一緒に検討を始めましょうという話の中には、どこにどういう形で建てるのかということがひとつ

あります。それのご相談とあわせて、2階に上がるためにエレベーターが要るのかという議論に必ずなりますので、できる限り木造の平屋建てで2階に上がらなくてもいいように、そういったことも含めて木造平屋建てという基本的な方針を一緒になってご検討いただきたいなと思っています。

放課後児童クラブは、以前からこの2階を使っておられると思いますが、それ自身を専用施設でつくることもありますし、公民館に付属した放課後児童クラブというのを、公民館の450㎡の範囲の中ではなくて外につくるような例もあります。例えば醇風とか日進などもそうだったと思いますが、いろんなことがまた考えられます。だから地区公民館の面積を使うこともできるとは思いますが、それにプラスアルファして放課後児童クラブのスペースをつくることもまた検討の過程ではいろいろ議論したいと思っています。放課後児童クラブ自身の専用施設を小学校の敷地内に建てているようなところも多くあることはご存じだと思います。西郷ではここを使っていたわけですが、公民館をどこでどうするのかという議論になったときに、改めて、この辺のこともあわせて議論して、適切な施設にするというのがいいと思います。

いきいきサロンについても、同じこの西郷地区でも、湯谷荘でもやっていたと思いますが、ぜひこれはいろんなところでやられたらいいと思います。地区公民館を大いに使っていただいたらいいと思いますが、それはそのサロンが開かれるときだけ専用の部屋を確保すればいいわけだと思いますので、ぜひぜひ地区公民館の新たな活用として考えていただきたいと思っています。本当に使いやすい、気持ちのいい便利な地区公民館の新築になると思います。近隣でいえば国英地区の地区公民館が最近できたところですので、また建設について話し合いが行われるときに、一度最近の実例として見に行っていただいたら参考になるとと思います。

(地元意見)

これからの予定ですが、いつごろ準備委員会をつくられて、どのような会合などを持たれて、いつごろから着工されるか、それから、いよいよ最後に完成するのはいつごろでしょうかという点をひとつはつきりとお願ひします。

(企画推進部長)

この地域づくり懇談会のあと、検討委員会の組織化を今年度中にでもしておいて、25年度には本格的に協議を始めたいと思います。なにぶん公民館をひとつ建てるとなると億単位の事業費がかかりますし、将来にわたって何十年も使うものですので、やはり慎重にしっかりとした画を地域のかたと描かなければいけないと思います。25年度にその検討をやりまして、それができたら設計の予算をまず取って、設計ができて事業費が確定したら、また議会で予算を取って工事にかかります。そういうことをやっていると、一般的にひとつの地区公民館ができるまで、3年ぐらいはかかるとなっています。設計でも時間がかかりますし、工事でもかなり時間がかかります。ですから3年とみてもらったらいいのかなと思っていますが、これはそのときの状況によってまた変わることもあります。でも、一旦決まったら、とにかく一生懸命やろうと思っていますので、よろしくお願ひいたします。

(地区公民館長)

この前、部落長会と公民館とむらづくり協議会の、西郷に責任を持つ3団体で、ぜひこの危ない、大きな地震が来たら命の保証がない建物を何とかしてもらおうと、こういうことで一生懸命相談して希望を挙げましたところ、このようなありがたい前向きなお返事をいただいて、本当に感謝しています。これで夢が実現して、より西郷が力強く進める基盤ができると非常に喜んでいきます。

また特に、今年度から25年度、26年度の、中国地方の知事会の共同研究ということで、中山間地を振興するというモデル地区に西郷が指定を受けたこともあります。そういったことで、より一層皆さんが集ったり夢を描いたりして着実に進むための拠点についての見通しができるということで、我々も改めて頑張る気持ちでぜひ前に進めたいと思います。本当にありがとうございます。

## 7 市政の課題についての意見交換（フリートーク）

(地元意見)

先ほどいきいきサロンとおっしゃっていたのは、ふれあいサロンのことではないかなと思っているのです。実は昨年11月に、私たち3人で西郷ふれあいサロンというのを、JAの支店を借りましてオープンしたところです。お金も何もありませんので、寄っていただくかたから300円ほどいただいて、コーヒー代とかいろんな運営費に充てています。月2回ぐらい開催したいと思い、去年から4回開催しました。大体15人から20人ぐらいお集まりをいただいて、とても楽しいと喜んでいただいているところです。市長さん、それから支所長さん、いろいろお世話になりますが、西郷ふれあいサロンというのを設立しましたということをご皆さんに周知させていただきたく思います。

3年後に公民館ができたなら、このふれあいサロンもどこかの隅に入れていただけののかなと思いつつ、いきいきサロンではなくふれあいサロンだということで、訂正を兼ねて皆さんに周知したく、ごあいさつをしたところです。

(竹内市長)

通常は地区の社会福祉協議会などと連携したり、あるいは直接高齢社会課などから一定の補助金が出るような仕組みで、ふれあいサロンというのをやっていると思います。ふれあいサロンというのは、一つの地区の中に1カ所というのではなくて、ある程度の数があるような仕組みでやっている、私の念頭にはあるのです。地域の皆さんが、JAの支店を使って寄り合いをして、お昼をつくって食べて、みんなで話し合っているかたちですが、そうですか。

(地元意見)

いいえ。町の社会福祉協議会にご相談せずにつくったあとで、何とか援助をいただけないだろうかというご相談に生ましたら、所長さんからは西郷地区全体というとき大き過ぎると。各部落で少人数の地域だったら5,000円とか1万円とかの助成金が出るが、西郷地区一円と謳われたら大き過ぎて対象にならない、とおっしゃられたのです。西郷地区全

体の部落長さんや老人会長さんにご報告はしましたが、送り迎えをしないので、西郷地区全体とは謳いましたものの、乳母車を引いたりして出られるのは、ここの地元の牛ノ戸、中井、湯谷の辺のかたくらいです。どうも北村とか神馬の奥とかからは、交通の便もないので出てこられません。補助の対象になるのだったら3部落ぐらいを対象にして、少しでもいただけないものだろうか。その辺の知識がぜんぜんなく、自己負担で楽しませてあげようという我々の浅い考えでしたが、やっぱり使用料も要りますし、灯油代も要りますので、ちょっとしんどいです。どういうふうにしておかげをこうむるか、助成金のルートなどの勉強をしようかなと思っています。

(竹内市長)

制度の説明はまた総合支所を通じてきちんとさせていただきたいと思います。私もこういったふれあいサロンに寄ってみませんかと時々誘われて、伺うことがあります。いろんな話し合いをしたりした後、レクリエーションをしたり、ただいたい昼前後に集まるので、簡単な食事をみんなで一緒に食べたりしてやっておられる。私が理解しているのはそういう仕組みですが、多少の助成が出るはずなので、ぜひ続けていただきたいと思います。やはり日常的に集まっていただくためには、最寄りの人たちが集まるのがいいのです。特に高齢のかたの寄り合いですので、顔見知りの人たちが家に引きこもらないで出てきて、男性のかたも女性のかたも出てきて一緒にしばらく過ごすという、それがひとつの楽しみとして生活に潤いを与えるということになるような、そういった活動はぜひ続けていただきたいと思います。

制度の説明は改めてきちんとした形でさせていただきますし、応援したいと思います。私の方で方針を申し上げましたので、あとは市民福祉課の方で話してもらえばいいと思います。地区の社会福祉協議会とも連携をとって、よろしくお願いします。

いま、何か説明できることがありますか。

(市民福祉課長)

施策とかそういったことについては、社会福祉協議会と協議しながらやっていきたいと思っています。

(竹内市長)

社会福祉協議会と一緒にになるとか、寄ってもらって一緒に話ができるとか、そういう形でやってもらえますか。よろしくお願いします。

<補足：市民福祉課>

地区社協に照会したところ、いまの制度では西郷地区全体としては該当とはなりません。しかし、現在は小地域単位の取り組みのため補助対象となりますので、申請してくださいと回答を得ました。ただし、規模が大きくなり西郷全体に及ぶようであれば該当しなくなります。

(地元意見)



市民体育祭のバスケットボールに参加させてもらっていて、普段は小学校の体育館を使っているのですが、器具庫側の方のリングが現在上がり下がりができない状態です。学校長と話をしましたが、なかなか順番が回ってこないようで直してもらえないということでした。でき得れば早急に、上がり下がりできるように直していただきたいなと思っています。

(教育委員会事務局次長)

施設については教育総務課が担当しています。現状については校長先生の方から報告をいただいているわけですね。教育施設ですから一番大切なのは安全面でありまして、緊急性に応じて対応しているというのが多分現状だと思いますので、帰りましてから確認をさせていただきますと思います。

<補足：教育総務課>

バスケットゴール・リングの上下作動の不具合については、平成23年度の学校の体育施設点検により把握しておりますが、児童・生徒の安全を最優先に修繕等を行っているため、社会体育で使用されるこの設備の修繕等は後年度対応としているところです。

(地元意見)

私は、地区と集落の交通安全の役をしているのですが、その関係で、朝ここの100円市から保育園まで雪掻きをしたときに感じたことです。子どもは地域の宝ですし、お年寄りも地域の宝だと、こういうことはかねがね思っていますし、聞いているところです。100円市の説明を見たら、平均年齢が78歳で、11名で運営しておられる。私も農業をしていますが、販売までというのはなかなか骨の折れることです。このかたがたが100円市の前を雪掻きされるわけですね。私もできる範囲で時々雪掻きをさせていただいているわけですが、今回のような水分を含んだ雪を除雪車で100円市の前の方に置かれると、大変なご苦労なのです。ですから除雪車をもう一回バックさせて、100円市の前の雪を上手の方に持って行っていただけるように考えていただけたらありがたいなと。小学校の子どもたち9人がそこを通るわけですし、その子どもたちの交通安全という意味合いと、それから頑張っていたいただいている地域の100円市の皆様のご苦労を少しでも軽減できるのではないかなと、そんな思いで、本当にささやかなお願いをさせていただきました。

(産業建設課長)

100円市の前のところですね。基本的には早朝除雪とありますが、車道の方の除雪に力を入れており、通勤とか通学とかの前には掻くということがありまして、それで歩道の方はどうしても後という格好になるかと思うのです。交差点とか県道の接続道路とかについてもやはり優先順位ということがありまして、雪の塊が残ったりするということもあるかと思っています。それについても何とか鋭意努力して業者の方をお願いするところですが、また地元の皆さんのかたにもご協力をお願いしたいと思います。

(地元意見)

除雪車が搔くと、固まったかたちになるのです。そこに横断歩道があるわけですし、ほんの20mぐらいですからね。そこを配慮いただくと子どもたちも安心して歩行ができるし、100円市の皆さんも喜ばれるし、町外から100円市に野菜等を買物に来られるかたもほっとされる。雪搔きをしていないのではなく、高齢のかたがやっておられると、そういうを感じていただくのも必要かなと。本当にささやかな部分だろうと個人的には思っていますし、私も集落が市の除雪機をお借りしていますのでそれを使うのですが、使えない部分があるのです。

(産業建設課長)

その辺も含めて鋭意努力をするようにしますが、また地元の方のご協力もよろしく願いたいと思います。

(支所長)

先ほどの場所、子どもたちが横断するところですし、また本当に100円市も頑張っていると思っています。私もちょいちょい買わせていただきますが、本当に高齢のかたに頑張って、100円市の発祥の地を守っていただいているということがあります。除雪していただく業者は決めていますので、特にここはそういうご意見があった場所だということをお伝えして、特に配慮してくださいということをお願いします。ただ通行しながら搔くだけでなく、バックの1回でもして道路に出すという方向でお願いします。

(地元意見)

私どもも極力やるようにしますので。

(地元意見)

前にもお話ししたことがあると思いますが、夜の県道です。夕方5時半ごろから6時過ぎのころの、特に河原中学校からずっと西郷の方に帰ってくる県道です。ここを、男の子はいいというわけではないですが、中学生の女の子が自転車で帰ってくるのです。ところが街灯がなくて、暗いところを自転車の明かり一つで帰っています。特にひどいのが中学校から曳田の村の下です。それから、曳田のところを通過して天神原から中井の道。それから、中井を過ぎて牛ノ戸を過ぎてそれから湯谷までの道、その辺はもう非常に暗くなります。ところが、その暗いところを女の子が自転車の小さい明かりで帰っているということがありまして、かわいそうだな、何かあったら大変だなと思います。市だけでできない話かもしれませんが、県なら県にでもお話しいただいて、何とか街灯をつけるようお願いできたらと思います。

(都市整備部次長)

いまお話がありました県道の街灯については、2年前の地域づくり懇談会でもお話を伺っていただき、お答えをしています。街路灯には2種類ありまして、まず、道路管理者、この場合は県道ですので鳥取県が設置するのは道路照明といいまして、主に車の安全を確保するための照明です。もう一つが防犯灯といいまして、これは車ではなくて人とか自転

車の安全を確保するための防犯上の街路灯です。道路照明については国の方で道路の照明を設置する基準がありまして、それに基づいて鳥取県が設置していますので、なかなか新たにというのは難しい状況です。

それを補うかたちで防犯灯というのがありまして、これは鳥取市の方で設置をしています。設置にあたっては、地元で電気代などを負担していただくという条件でいたしますので、基本的には防犯灯を設置して維持管理を負担していただくのはその集落ということになります。よく問題になるのが、集落間を結んでいるところの防犯灯の負担はだれがするかといったことです。いままでに防犯灯を設置したところでも一番大きな問題でしたので、この辺は地域のかたでご相談していただいて、両方の集落が負担するとか、別の団体、例えばPTAとか地区自治会がされているところもありますので、そういった負担の検討をしていただいた上で、こういったところに防犯灯を設置してほしいという要望を担当の道路課に出していただければ、設置は可能です。ご検討いただきたいと思います。

(地元意見)

いまの件は、平成22年度のこの西郷地区の部落長会で重要課題になって検討されました。その結果、23年度に3基ついています。この24年度中、あと3月いっぱいまでに牛ノ戸-小河内間に2基、それから牛ノ戸、小畑に1基ずつ、2つの谷に2基ずつふえる予定になっています。23年度には、中井と天神橋の下手にLEDのがありますね、あれと落河内と新田と、ちょっと地域の角に設置しました。今年の3月までにもう業者も決まって2基増えるので、多少は解消されると思います。その電気代は、部落長会が共同で負担して払うということにしています。多少は改善されると思いますので、よろしく願います。

(支所長)

いまの説明でかなり取り組みがなされているということで、ご理解いただけますでしょうか。あと、天神原、曳田のバイパスの計画を進めていますので、このバイパスができればかなり明るい、見通しのいい安全な道路ができると思います。こちらについても西郷の地域にも非常に元気を出していただいていますので、今後ともよろしく願います。

(地元意見)

いま、街路灯の電気代が地元の負担になるというお話でした。それは規則なり決まりで仕方がないと思うのですが、ただ、それが当然だという考え方で置くのか。また、多分将来のある子どもたちを守るという考え方をすれば、都会というか町の方はもうそういう面では十分整備されているわけですよ。それが田舎の方だけ、設備は提供するから電気代はみろという考え方でなしに、やっぱり一歩進んで、それも行政の方の負担にするということも将来的に考えていただけたらなと思います。費用がたくさん要りますので一朝一夕にはいかないと思いますが、やっぱり行政として、従前の考え方から、何らかの方法で一歩でも前向きな考え方がしていただけないかなという思いで発言させていただきました。

(都市整備部次長)

鳥取市では、防犯灯を平成21年から従来の蛍光灯からLEDにかえています。ご存じのとおりLEDは省エネタイプになっていますので、電気代があまりかからないということがあります。鳥取市では環境ISOを取得していますので、そういう観点からもLEDにかえているところです。ただ、以前は中国電力の電気料金の区分が結構大きいもので、蛍光灯をLEDにかえても実際の電気代は下がらなかったのです。全国的にLEDを広めているのに、それでは全然LEDにするメリットがないではないかという意見がたくさん出ましたので、中国電力の方でも検討されて、おととしの12月ぐらいから細分化され、電気代が安くなりました。ですから以前に比べれば、負担金額もかなり安くなっているということでご理解いただきたいと思います。

(地元意見)

理解はしますが、ただ、考え方をね。いまは、十分設置していないわけなのです。電気代が要らないということになれば、地元としてもより積極的にその設備を配置できるということも考えられるのです。結局ネックになるのが、電気代とかそういうことで、負担がかかるということです。行政が提供する部分にも予算の制約がありますし、それと地域としてもやはり電気代がネックになって増設できないのではないかとということも考えられます。将来的に田舎の方の道路も明るくしていただければ、子どもたちをはじめとして交通事故等の防止にもつながらないかと思うのです。

いまどうこうしてほしいということではなくて、やっぱりもうちょっと大きな考え方をしてもらえないかなということなのです。

(竹内市長)

防犯灯は全市にわたって、まちなかであろうとそれからどこの地域であろうと電気代は地元負担でということと設置しているのが事実です。だから田舎だからどうかまちなかだからどうかということでは実際はないのです。これを全面的に無料化するにはどれくらいかかるのか私もちょっとここではわかりませんが、かなりの財政負担になって、それがためにほかの行政サービスとの関係を考え直さなければならなくなるということは容易に想像できます。したがって、これは検討課題であるということは十分言えると思いますし、子どもたちの安全が大事だということは言うまでもないことですが、一挙に無料にすることも難しいということをご理解の上お話しになっていると思いますので、どのようにしていったらいいか。

既存の部分でも、例えば蛍光灯が切れたときにLED化する場合にも、地元にも負担してもらっているのです。こういったときにLED化することでなかなか切れなくなり、既存の部分の電気代も下がってきます。実際にそうすることで同じ電気代でより多くの防犯灯がつけられるといった状況も生み出しつつあります。LED灯にするのは初期投資の部分は市が負担して、これはかなり高いのですが、電気代を下げることで地元の負担が下がります。あるいは既存の部分もLED化することで、新規の部分でなくても全体として下げるような努力もしているということをお話ししておきたいです。

(地元意見)



私も昔は、たまに自転車に乗っていたものですから。いまちようど天神原の道をきれいにされるとい話が出ています。子どもたちが結構自転車に乗っているのですが、行き帰りどうしても車道に出てくるということになります。なぜかといいますと、段差があったりところどころ狭くなったりしているものですから、歩道を走ろうにも歩道が大変走りにくい。できれば県道を整備される時に、あわせて走りやすい歩道にしてやっていただければ、自転車もそっちの方を走ることになると思います。本来自転車は車道を走るものですが、子どもたちはやっぱり歩道の方が安全なので、その辺をちょっときれいにしておいていただければ走りやすくなるのではないかなと思います。そうすれば交通事故も減ってくるという気がしますので、ご検討をよろしくお願いいたします。

(都市整備部次長)

柚小屋曳田線ですね。バイパスの部分。

(地元意見)

具体的に言いますと、天神原から中井までの間は広いところがあったり狭いところがあったりするし、また段差があったりしてアップダウンが結構きついのです。歩道の部分だけ上がっていますが、場所によっては低いところもあります。乗ってみられるとわかりますが、結構乗りにくいものですから。

(都市整備部次長)

柚小屋曳田線の選果場から天神原の神社ですかね、その間がバイパスで整備されます。それに関連して、近隣は特に鳥取県の方が関連整備ということでされると思いますが、もし離れている部分であれば、それは県の方に歩道の整備を要望したいと思います。昔はマウンドアップといいまして、歩行者を守るために道路より少し上げて歩道をつくっていましたが、ただ、出入りの部分だけはどうしても上がり下がりができますので、いまになりますと、高齢者のかたが歩いたりとか自転車が通ったりするのも結構しにくいと。上がり下がりもなくしてフラットなかたちで道路の路面と同じ高さにした上で、縁石で区別して走りやすい構造にしているところもありますが、そういった改良もしていただきたいということは県の方には伝えたいと思っています。

(支所長)

曳田バイパスの計画は、歩道は2.5mぐらいを予定してまして、やはり車道と同じ高さのフラットな構造です。先ほど次長からお話ありましたマウンドアップの歩道は、できるところから少しずつ改善していくということで、これについても当然県の方に要望してまいりますので、よろしくお願いいたします。

(地区会長)

先ほど話がありました防災マップ、これに避難所が出ていますが、山間部はだいたい土砂災害特別警戒区域ということになっていて、その中に避難所が多く含まれています。ほぼ避難所イコール公共施設ということになっているのですが、この地区の公民館にしても

その区域に入っているようですし、それから私のところの公民館もあるのですが、そこも区域に入っています。実は去年大雨が降ったときにその横の土砂が崩れまして、いまはそのままなのです。そこは民地ですので、関係者で直すようなかたちでしているのですが、そういったことで、避難所でもそういうことがあるので、ひとつ避難所を指定されるのに、イコール公共施設というのでなしに、土砂災害警戒区域ということも頭に入れながら、指定の見直しをお願いできたらということです。

それから避難所ということで、もし何かあった場合には避難するわけですが、避難所にある備品といいますか用品、そういうものも災害の多いところには用意してあるようです。あまりこの地域ではそういった話は聞きませんが、いずれそういうものを用意されるお考えがあるのか、いや、地元の方でやはり用意してくださいということで市から助言等をいただけるものなのか。

(危機管理課参事)

まず、避難所の指定についてですが、基本的には公共施設を軸に行っていて、西郷地区は地元の公民館も指定になっています。災害時におきましては、安全なところに行ってもらおうということが原則ですので、ここの地区がもし危なかったらよその集落に行ってもらおうとかたちで、連携をとりながら安全なところに避難してもらおうことを考えています。ここが全体に使えなかったら何とか安全なところに行くということで、災害時には早目に行動していただければと思っています。ここの地区だから、ここの集落だからこの避難所に行かなければいけないというのではなく、どうしたら安全なところに行けるかというのを考えてもらいたいと思いますし、私どももそれについては協力させてもらいたいと思っています。

それと、備蓄の関係ですが、河原にもありますよね。基本的には食糧とか毛布については備蓄箇所がありまして、実際に災害を受けましたら、そこから避難されている避難所に持っていくかたちにしています。

地元の方で準備しておかなければいけないものについては、いま、まちづくり協議会への補助金がありますが、来年度、それに関連して地元で実際に防災に使える機材とかそういったものが整備できるように、増額のようなことを考えているところです。地元の方で必要な機材は、それぞれの実態に応じてあると思いますので、そういったものを備えてもらうようなかたちで考えているところです。

(支所長)

河原町内におきましては、河原町総合支所に備蓄倉庫を持っていて、水とか非常用の食糧、毛布などは準備しています。避難されたという一報がありましたら、私どもの方から早急に配達できるような対応をとっていますので、避難という事実が起きた場合はご連絡いただきたいと思います。

(竹内市長)

ちょっと待ってください。総合支所だけにしか置いてないの。例えば、西郷小学校には必要じゃないの。旧市内の小学校にはそれぞれ置いてあります。

(支所長)

では、小学校の方とも相談させていただきます。24時間、夜中でも対応できるのは総合支所で、警備員もいますので、いつでも持ち出しできるということがあります。問題はいつどの時間でも持ち出しできるシステムを確立しないといけません。学校に夜中に誰が鍵をあけに行くのか、その辺の合意形成がまず図れないと、なかなか置けないということもありますので、ご理解いただきたいと思います。

(竹内市長)

学校は避難所になっているから、いざというときには24時間いつでも開けなければいけません。だから支所から出てきてあけるとか、近くのかたに先生でも連絡とってあけてもらうとか、そういうことをするのは、避難所だから、そこに置いてあることの方がより合理的です。支所にあるからそれがベストだとは言えないし、例えば西郷地区は一番西の端にあるわけだからそういうところに置いておくとか、千代川を渡れなくなったら困るから国英に置いておくとかということ、ある程度、考えておく必要もあります。

#### <補足：地域振興課>

小中学校に避難所を開設する場合は、市職員の「避難所責任者」が、学校長や自主防災会等地域の皆様と連携して、速やかに開錠することとしています。

また、備蓄品を他の避難所に分けて配備することについては、地区と協議させていただき、管理責任を明確にした上で実施したいと考えます。

(竹内市長)

すみません、地区会長さんのお話でしたし、防災が一番大きなテーマの一つなので、最後の質問にももう少し具体的に答えられたらなと。備蓄のあり方としては、河原町内には備蓄用品というか災害に必要なときのもの置いてありますし、鳥取市全体としても駅南庁舎のところにまとめたものを置いてあります。避難される場所が複数に、いろんな場所になるので、ある程度輸送システムにならざるを得ないのです。必要に応じて運んでくる、それから必要な追加のものを聞いて手配する、そういったかたちで備えるようになります。すべてのものを全部地区ごとに置いていくということにもなかなかならないのですが、より合理的な配置も考えたいと思います。

避難場所も一番安全なところに避難していただくということで、公共施設を一応指定していますが、そこに避難しないと当座の救援の用品を持ってこないかといったらそうではなくて、その集落ごとの集会所、公民館、こういったところに避難されるかたが何人いるということが把握できれば、そこに持っていくというかたちにしています。避難所に指定されている以外のところには救援物資は来ないという考え方ではありませんので、まず安全なところに避難することを心がけていただきたいと思います。この地域であれば地区公民館とか小学校ですが、より平地で、がけ崩れとかそういう心配がないのは恐らく小学校の方だと思いますので、そういったことにも十分配慮して、災害が起こったら、どういう状況かをまず把握して、安全な場所に避難していただくということでお願いをします。

我々もそういったことを放送するなど、いろいろ伝達に努力をしたいと思います。

## 8 市長あいさつ

全体のまとめということですが、地区公民館をどうするのかというのが今回の一番大きなテーマで、この建物を耐震補強する、いわゆる改修するというより、新しい公民館を建ててずっと長く使っていただく方がいいと。そして、いま、鳥取市の基本的な方針は、高齢化が進む中、平屋の建物にしていくのがいいということで、多くの例が既にできてきていますので、そういった方向でこの西郷地区のより協働のまちづくりが進むような拠点として、新しい公民館をと考えています。鳥取市内でも、新築の場合もありますし耐震補強をしてこれからも使おうという場合もありますが、先ほど申し上げましたように耐震の対策が必要な複数の公民館があるわけです。そういった状況の中で、25年度から計画内容を協議させていただいて、できるだけ早い時期に計画を立てて進められるように、全体の調整をしていきたいと思っています。3年という話が部長からありましたが、この3年というのは27年度中の完成という意味です。

この公民館が表彰を受けたというお話のご披露がありました。24年度に国から大臣表彰を受けられたということで、我々も大変うれしく、また誇りに思っているわけです。この西郷地区の協働のまちづくり、いなば西郷むらづくり協議会による取り組みがこれからもぜひ進みまして、引き続き地域の皆さんが安心安全に、そして地域の誇りを持って暮らし、また若い人も定住される西郷ということになってほしいと思います。先般、私は市報でむらづくり協議会の会長さんと対談をしましたが、会長さんは中山間地域の活性化は、住んでいる人が地域に誇りを持つことが大事だということをお話しておられ、私も同感、共感したところであります。西郷地区ならではのお話でもあったと思います。地域のかたが本当にこの西郷地域のいろんな特色に対して自信と誇りを持っておられるということをお話していましたが、そういったことが一つの原動力となって、ここのむらづくりが進んでいること、これは本当にすばらしいことだと思いますので、これからはしっかりと続けていっていただきたいと思っています。また、行政サイドもいろいろ柔軟に考えることが必要だというお話もいただきました。まさにそのとおりで、かなり柔軟に考えているいろんなことを進めさせていただいていると思っていますが、行政として、何を優先して何を真っ先に取り組むかについては、限られた資源、つまり限られた予算であったり限られた労力であったりしますので、いろいろと判断を迫られます。しかし、ぜひ地域がよりよくなるように柔軟に考えて、努力はしていきたいと思っています。

先ほどの100円市のところの除雪も、何とかやっという話になったと思います。地域で委託業者の人に相談したり、いよいよできなければ総合支所とか公民館の方で声をかけたりして、問題があれば地域の皆さんとともに解消するという、行政と地域の皆さんの協働が大変重要だと思います。鳥取の街なかには100円バスというのが走っていますが、やっぱりバスの停留所が歩道にあるので、歩道に積もった雪でバスに乗りおりできなくなるようなことがあります。そのとき、私は市が運行している100円バスなのだから、停留所の歩道のところの除雪をして回りなさいと市の職員に話したところ、市の担当課の職員が出かけて行って除雪をするようになりました。日曜日でも除雪をして、ちゃんと歩いてきっちり乗りおりできるようにしているということもあります。道路除雪車で



はとてもバス停の除雪まではできませんが、交通政策室の皆さんがそういうことをやっていますし、私も実際に自分自身でやったこともあります。

そういったことで、みんなが力を出して問題を解決しようということが大事だと思います。ぜひぜひそういった地域の課題に、自分たちが考えて行動していただいて、また行政も一緒になってやろうよと声をかけていただければやりますので、どうぞよろしくお願ひします。

西郷地区の地域づくり懇談会、大変貴重なお時間を割いてご出席をいただきました。また部落長会の会長さんはじめ公民館長さん、出席の皆さん、本当に長時間にわたるご参加ありがとうございました。